

デジタル画像の利用促進

宇陀則彦 (図書館情報メディア系), 和氣愛仁 (人文社会系)
大久保明美, 後宮優子, 田村香代子, 松野渉 (附属図書館)

背景と目的

近年, デジタルアーカイブ構築を目的としたコンテンツマネジメントシステム (CMS) や, IIIF のような画像を共有するための標準的な枠組みの普及により, デジタルアーカイブの構築とデータ連携が加速している。しかしながら, 既存ウェブサイトとの統合や OPAC システムとの連携, あるいはシステム運用の持続可能性など, 考えるべき点も多い。本研究は附属図書館が有するデジタル画像の利用促進を目指し, IIIF プラットフォームを構築し, 図書館サービスの運用可能性を探ることを目的とする。

IIIF とは

IIIF (International Image Interoperability Framework 「トリプルアイエフ」) とは, 画像へのアクセスを標準化し相互運用性を確保するための国際的なコミュニティ活動である。その成果として, 画像へのアクセス方式を定める IIIF Image API, 書籍などの構造を定める IIIF Presentation API, 検索を用いたアクセス方式を定める IIIF Search API, 認証つきアクセスのためのワークフローを定める IIIF Authentication API の 4 つの API が公開されている。API の仕様が公開されているため, API に準拠したソフトウェアを誰でも自由に開発することができ, さらにその成果をオープンソースとして公開することも可能である。こうして IIIF に対応したオープンソースソフトウェアがいくつも生まれ, それらが IIIF の使い勝手を向上させることで, さらにユーザが集まるという好循環が働いている。(以上, 人文学オープンデータ共同利用センターのサイト <http://codh.rois.ac.jp/iiif/> より一部修正の上引用)

成果

Drupal と Cantaloupe を用いた IIIF 対応デジタルアーカイブ管理システムを構築した。このシステムは, 汎用 CMS である Drupal を用いて, Omeka S 相当の機能を持つ DA 管理システムとして構築されたものである。既存の Drupal モジュールを利用して大部分を構築しつつ, 既存のモジュールでは対応できない IIIF マニフェストの動的生成機能については, 独自モジュールを開発することで実現が図られている。実際にこのシステムを使って, 画像をサーバに登録し, Cantaloupe を通じて IIIF 画像として取得できるようにした上で, システム上に画像情報と資料情報を登録し, アーカイブとして参照できるようにするとともに, IIIF マニフェストが自動的に生成される DA 構築作業を行った。

新しい図書館サービス (構想)

- ・ユビキタスコレクション
図書館が巨大な IIIF 画像空間から利用者のためにコレクション形成を行うサービス
- ・相互援用型コレクションサービス (Mutual Invoked Collection Service MICS (ミックス))
利用者の IIIF コレクションと比較し, 足りない画像を自動的に補うサービス